

## 事後評価書

箇所名	大淀漁港		事業名	水産基盤整備事業	課名	水産基盤整備課
事業概要	工期 (下段当初計画)※	H21年度～H30年度	全体事業費 (下段当初計画)※	2,388百万円 (負担率: 国2/3 : 県1/3)		
		H21年度～H30年度		2,154百万円 (負担率: 国2/3 : 県14/60 : 他6/60)		
事業目的及び内容	<p><b>【事業目的】</b>            大淀漁港は、大堀川河口に整備された漁港であり、伊勢湾に面した三重県の中央付近に位置し、明和町と伊勢市に跨っています。            当漁港の海岸保全区域内の海岸堤防は、昭和28年の13号台風、昭和34年の伊勢湾台風により背後地が甚大な被害を受けたため築造されました。しかしながら、築造後46年が経過し施設の老朽化が進行するとともに、今後発生が危惧される地震に対する防護機能が不足していました。            このことから、高潮や高波等から背後地の生命・財産を守ることを目的として、堤防・護岸の老朽化対策、鋼矢板による地震対策及び突堤・養浜による浸食対策を隣接区間の海岸整備と進捗を併せて実施しました。</p> <p><b>【事業内容】</b>            堤防 (改良) L=1,730m            護岸 (改良) L=559m            胸壁 (改良) L=127m            陸間 (新設) 2基            養浜 1式            突堤 (新設) 1式</p> <p><b>【事業期間】</b>            平成21年度～平成29年度</p> <p><b>【総事業費】</b>            約24億円</p>					
1・事業の効果	<p>1-1 事業の効果            整備前は、堤防の老朽化が進行しており、高潮や高波等により海水が堤防を越波して浸水する可能性がありました。また、地震時には液状化により堤防が沈下し、背後の家屋などに浸水被害が生じると共に、住民の生命に危険が及ぶ可能性がありました。            堤防・護岸の法面補強及び鋼矢板による液状化の抑制を行うことで、高潮に対する防護機能の確保及び沈下を抑制しました。さらに、養浜及び突堤の整備を行い、波の高さを抑制し、堤防を越波する流量の低減を図ることで、高波や高潮などによる家屋などの浸水被害を防止し、住民の安全が確保されました。</p> <p>1-2 事業効果の評価            令和6年度時点の費用便益比は、6.51です。</p>					
2・事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	<p>大淀漁港周辺の海岸は、アカウミガメの上陸・産卵する海岸として役割を担っており、整備する堤防の設計・施工の際には、当海岸の生物調査を行っている研究団体にヒアリングを実施して意見を求めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産卵期 (6～7、8月) に工事を行わない。</li> <li>・広範囲で同時に工事を行わない。</li> <li>・堤防上に照明灯を設置しない。</li> </ul> <p>などの意見を踏まえ、環境保全対策に取り組み、生態系に配慮した整備を実施しました。            その結果、工事施工中においてもアカウミガメの上陸・産卵は確認されました。また、事業終了後の傾向としても三重県全域、伊勢湾全域の状況と変わらない状態を維持しています。</p>					

### 3・事業を巡る社会経済情勢等の変化

伊勢市、明和町共に人口はそれぞれ7%減、1%減と減少傾向にあります。特に背後地域である伊勢市東大淀町、明和町大淀地区はそれぞれ17%減、12%減と人口減少が顕著な地域となっています。一方で、世帯数は市町、地区いずれの分類でも3～11%の増加傾向となっています。

これらの人口及び世帯数の傾向は、全国的にみられる核家族化の進行が影響していると考えられます。

### 4・県民の意見

#### 4-1 アンケート調査の概要

背後地域の住民および周辺の伊勢市、明和町の住民に対し、アンケート調査を実施しました。

紙媒体のアンケートに加え、Webアンケートを実施し、それぞれの配布部数及び回収部数は以下の通りです。

種類	対象者	配布数	回収数	回収率
紙媒体のアンケート	防護区域内の住民	1271部	394部	31.0%
Webアンケート	伊勢市・明和町 に住む住民	-	250部	-
合計	全体	-	644部	-

#### 4-2 アンケート調査の概要

紙媒体アンケートでは約65%、Webアンケートでは約40%が「安心感が増した」と回答をいただきました。

##### 事業効果に対する意見

- ・人命の為の工事だが、環境にも配慮されていてとても良いと思う。
- ・地味な事業だが、着実に防災機能の強化をしていただいたと評価している。
- ・安全に暮らせる様に今後も維持を宜しくお願いします。
- ・アカウミガメ等の生物に配慮している取り組みをわかってなかったのが知れてよかった。
- ・津波に関しては、一人一人が意識を持つことが大事と思う。
- ・国や行政にお願いするだけでなく住民が意識を高めて海岸清掃や海づくりに参加していけるようになればいい。

##### 改善・要望等に対する意見

- ・堤防の高さも大規模台風などの高潮や津波など、さらに安心感が持てるように1mでも高くしてほしい。
- ・堤防や海岸のごみが多い。
- ・散歩していると平坦部と法面部の継ぎ目に全体に草が生えてきている。堤防の強度が落ちるのではないかと。
- ・学校（小、中）教育委員会等での現場視察、アンケートを増やす。こうした事業の有難さを早くから知らせておくべきだと思う。

### 5・再評価の経緯

再評価の実施：無し

### 6・今後の課題等

- ・大規模地震によって発生する津波が不安であるとの意見が多くあるため、住民の皆様は避難所・避難経路の認知率も高く防災意識が高いことから、引き続きソフト対策の周知に努めていきます。
- ・堤防・砂浜の雑草やごみに対する要望があるため、引き続き住民を交えたごみの収集や除草を行い、海岸の環境美化に努めていきます。
- ・事業の情報発信に対する意見があるため、事業実施の際は地域住民との意見交換や、教育機関等への工事見学会など、事業の目的や施設の役割を発信していきます。

### 7・委員会意見の概要

事業の効果については評価結果の妥当性を認める。

### 8・事業方針の概要

地域住民等を対象にアンケート調査を行ったところ、大規模地震による津波被害や海岸保全施設の事業効果の情報発信について意見をいただきました。

このため、施設整備に加え避難訓練などのソフト対策との連携や、事業の目的や海岸保全施設の役割について見学会や意見交換会での情報発信に取り組んでいきます。

※再評価実施事業は(下段前回)とし、前回再評価時の内容を記載する。未実施の場合は(下段当初)とし、当初計画時の内容を記載する。